

は
が井戸端会議から
記事が生まれる

波賀支部かわら版“ほっこり通信”



「町内あつちこつちのふれあい喫茶の取り組みを紹介してはどうだろう」「葬祭用具の使用が無くなつたけど、この頃は家族葬で使ってもらいやすいかな」「『あいめく』を届けに行ったら、ひとり暮らしの方がホンマ嬉しそうに話して手紙を見せてくれてんや」。

社協波賀支部のかわら版「ほっこり通信」の編集会議は、ちよつとした井戸端会議のようです。

ローカルな話題の中から、委員自身が気づきながら、地域福祉の新しい動きや課題が明らかになっていきます。

編集会議は、地域福祉推進委員会から選出した委員7名に、支部の職員を加えた10名。「身近な福祉をもっと身近に!」「波賀の話題と支部の動き」をお伝えするこ



波賀支部かわら版“ほっこり通信”は、地域福祉推進委員会が責任を持って発行しています

とをめざしています。

7月15日に発行した「ほっこり通信」第2号のトップ記事「多様な葬儀と地域社会」は、そんな編集委員の井戸端会議からの提案です。2面の「あつちこつちのふれあい活動」で紹介されたのは、「谷自治会5組の男のふれあい喫茶」と「飯見のふれあい喫茶の出版」です。委員自身が頭をひねりながら執筆しました。

集うこと、地域を語ることが、地域福祉を推進する、はじめの一歩につながっています。

(波賀支部 可藤和成)

『みんなで楽しむ』
ボランティアまつり

7月21日(土)、千種保健福祉センターで第12回ボランティアまつりを開催し、約200名の参加がありました。

今年は『みんなで楽しむ』をテーマに、ボランティアセンターに登録している21グループが、日頃の活動をスライドで紹介しました。

また販売や喫茶、ゲーム、作品展示に加えバザーなど、いろいろなコーナーを設け、趣向をこらしたボランティアまつりとなりました。

「スライドを見たら他のグループがどんな活動しよってか、ようわかった」「いろんなボランティアしよってのがあるんやねえ」など、いろいろな意見が出ました。

他の活動を知ること、ボランティアの輪も広がっていきます。



男性のメンバーが増えて音域も広がった『コーラスそよかぜ』の活動発表にみんなで聴き入りました

このまつりを機会に新しいグループや仲間を増やしていきたいものです。なお、バザー・ゲームコーナー等の売上総額6万2千円は、九州北部豪雨災害義援金として中央共同募金会を通じ、被災地へ送金しました。皆さんご協力ありがとうございました。

(千種支部 小原志のぶ)

ち
くさ